

大学院博士後期課程 2 次試験に関する諸注意

(平成 14 年度版)

大阪大学大学院工学研究科 電子情報エネルギー工学専攻

1. 発表の形式

1. 2 次試験は、平成 15 年 2 月 19 日 (水) に行なう。
2. 発表時間は発表 12 分、質疑 6 分とする。
3. 論文の内容を A4 用紙 1 枚にまとめた「発表会資料」を用意すること。発表会資料は「大学院博士前期課程修士学位論文発表会資料について」に準ずる。
4. 発表のメディアは OHP あるいは、パソコン上のプレゼンテーションシステムを使用する。
5. プレゼンテーションの 1 枚目は、題目、発表者名、所属講座を記したものとする。

2. 発表に関する一般的な注意

次の点に留意して準備し、十分に練習を行なった上で本番に望むこと。

1. 次の項目が明確になるように、発表を構成すること。
 - (a) 研究で取り扱う問題は何か。
 - (b) その問題を扱う動機、意義。
 - (c) 研究のアプローチ、特色。
 - (d) 同じ分野の他の研究と、その関連/相違点。
 - (e) 研究のある程度の詳細。
 - (f) どのような成果が得られ、それにどのような意義があるか。
2. 発表時間を厳守すること。これは、研究発表のマナーなので、とくに注意すること。
3. 枚数は特に制限しないが、あまり多いと交換が頻繁になり、見づらくなる。
4. 文字が十分見やすい大きさとなるよう注意すること。
5. 1 枚あたりの行数は多くとも 10 行程度とすること。特別な場合を除いて長い文を書かないこと。
6. 原稿を読まないこと。
7. 聴衆に向かって話すこと。スクリーンや OHP 等を見たままに話さないこと。
8. 発表のしぐさに気をつけること。ポケットに手を入れて話す、指示棒を担ぐ、指示棒でスクリーンを叩く・こする、髪の毛をいじる—など聴衆に不快感を与える動作は慎むこと。
9. 質問は十分に理解した上で答えること。質問は最後まで聞き、意味が分からないときは、質問者に確認すること。
10. 質問には簡潔に答えること。とくに、尋ねられていないこと、質問の本質に関係ないことについて長々としゃべらないこと。
11. 質問者が再表示を求めること（「xxxx の OHP をもう一度出して下さい」と求めること）があるので、すぐ出せるようにしておくこと。